

牧師室から (2022.12.18)

今、千葉の実家にいるが(14日)、今夜10時に双子座流星群が極大になるというので、風呂上がりで、寒い中、近くの公園まで出かけた。靴下でも履いて行けばよかったが、面倒だと思い、素足のままサンダルを履いて行ったら結構寒くて後悔した。公園には既に何人かの青少年がいて、それなりに盛り上がっていた。やはり若者たちは何かにつけて集まって騒いで楽しむものだなあと、自分の過去を顧みた。

空は雲がなく、都会では珍しいほど星がよく見えていたが、思ったより多くの流星は観察できなかった。双子座はその時間では比較的高いところにあったが、ずっと上を見上げているのにはとても疲れた。それでベンチに寝転がって上を見ることにした。しかし最近のベンチは、所々に手すりのようなものがついており、ゴロリと横になれないようになっている。それでも手すりの上に頭を載せて体を横にして上を見ることにした。変な姿勢になっていたのに違いない。(変なおじさんに見えるのではないかと思いがら…)

流星は2, 3分に一つは見えるのではないかと期待していたが、その間3つほどしか観測できなくて、結局30分位で寒くて帰ることにした。いつどこから光る物が出現するのかを目を凝らしてみていたが、何だか眼科で視野検査をしているような感じであった。見過ごしたものもあるが、流星が出現するたびに、若者の騒ぐ声が聞こえ、流星があったのを知らせた。

昔の人たちは流星を見て何を考えたのであろうか。星の導きによって、はるばる遠い道を通って、救い主イエス様に出会った、東方の博士たちのことを考えると、星に込められた神様のメッセージに胸が騒ぐ。

今は森羅万象を科学で説明しようとするあまり、創造主なる神様の御手によるメッセージと感激を失っているのではないかという、色々な思いをしながら帰路に入った。

「彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。」

(マタイによる福音書2章9, 10節)

(鈴木淳一牧師)